

## 「鉄と鋼」寄稿規程改訂についてのお知らせ

本会編集委員会では、講演大会の講演概要集のオフセット印刷への変更に伴い、会誌の編集につき会員各位に少しでもご満足いただけるようあらゆる角度から慎重に検討を重ねておりますが、今回別記のごとく「寄稿規程」を改訂し、本誌掲載時をもつて実施することになりました。

新規程では 1) 論文は講演発表と関係なく随時投稿することができます。また、2) 従来掲載の少なかつた現場技術およびこれに関連する諸技術の成果を発表できるよう技術報告欄を設けました。このほか研究速報、寄書、誌上討論についても任意に投稿することができます。

会員各位には「寄稿規程」ならびに「解説」をご覧のうえ奮つてご寄稿下さるようご案内申し上げます。

なお会誌「鉄と鋼」には会員からの寄稿原稿による編集のほか、技術資料、展望、解説などの記事を広い範囲に依頼し、内容の豊富かつ充実した編集を行なう方針であります。各位の一層のご協力をお願いいたします。

## 「鉄と鋼」寄稿規程

### 〔寄稿規程解説〕

1) 論文は講演発表とは関係なく随時投稿することができます。

編集委員会としましては、投稿論文はその内容から大別して (I) 一連の研究成果をまとめた総合的な性格をもつた論文と (II) 速報的性格をもつた論文 (従来の講演論文よりも内容の充実したもの) との 2 つの性格のものが投稿されることを期待します。原稿枚数の制限について特に規定を設けませんが、投稿者の自主的な判断によつて、上記のいずれかの性格のものにできるだけ簡潔にまとめて投稿して下さい。査読の結果、その内容についての修正、削除、加筆などを必要とする場合は編集委員会より折り返し連絡します。

2) 技術報告は工業的に貢献する鉄鋼製造技術およびそれに関連する諸技術の成果の報告を希望します。

3) 研究速報は発表期日の優先性を必要とする著者の独創的研究成果を発表する欄とします。

4) 寄書は会員はもちろん非会員も含め各分野の方々から投稿いただき、相互の意見交換などの場とします。

5) 誌上討論は掲載された「論文」「技術報告」「研究速報」に対する討論で、会員からの自主投稿と編集者の意志の入つたものとの 2 本立てとします。

## 寄 稿 規 程

1) 本会会員は、会誌「鉄と鋼」に「寄稿区分」に示す原稿を投稿することができる。ただし、寄書は非会員も投稿することができる。

2) 原稿は、会誌に掲載する前に他の学協会誌およびそれに類する刊行物に発表されないものに限る。

3) 原稿は鉄鋼の学術ならびに技術の発展に寄与するものでなければならない。

4) 原稿は簡潔、正確であり、内容を容易に理解できるものでなければならない。

5) 原稿の執筆は「執筆要領」に基づくものとする。

6) 原稿の受理年月日は、原稿が本会に到着した日とする。

7) 原稿は編集委員会において審査し、掲載の可否を決定する。また審査の結果、修正、加筆、削除などのために原稿を返却することがある。その場合、編集委員会の指定した返却日を過ぎて再提出されたものについては、新規投稿とみなす。

## 寄 稿 区 分

原稿区分	原 稿 内 容	原 稿 制 限	欧文要旨
論 文	著者の独創になる学術および技術の成果を記述したもの		200 語以内 (和文添付)
技術報告	鉄鋼の製造技術, 設備技術, 管理技術および鉄鋼の材料技術などの成果を記述したもの	表, 図, 写真を含め 26 枚 (400 字語) 以内とする ただし, 依頼報告はこの限りでない	200 語以内 (和文添付)
研究速報	著者の独創的研究成果で, 発表期日の優先性を必要とするものであり, その理由を明確にした小論文	表, 図, 写真を含め 8 枚以内とする	200 語以内 (和文添付)
寄 書	著者の独創的研究成果のほか, 鉄鋼に関する学術または技術についての意見あるいは提案などを編集者に対する通信の形で述べる	表, 図, 写真を含め 4 枚以内とする 図, 写真は合わせて 2 枚以内とする	
誌上討論	会誌「鉄と鋼」に掲載された論文, 技術報告, 研究速報に対する修正意見, 例証, 反証などを記述する	表, 図, 写真を含め 3 枚以内とする	

## 執 筆 要 領

- 原稿投稿の際には, 本会所定の原稿表紙および原稿用紙 (横書き・25 字×16 桁=400 字・30 枚綴・定価@30 円・千@35 円) を用いる。  
原稿の表紙には所定の事項を正確に記入し, 原稿は左横書きとする。
- 「寄稿区分」に示す原稿のページ制限を厳守すること。ただし英文, 和文要旨は原稿枚数に入れない。  
会誌の刷り上り 1 ページは原稿用紙 5.5 枚にあたる。
- 文章は平易な口語体を用い, 漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い, かなは新かなづかい (第 4 表例参照) による。  
周知でない術語や装置などについてはわかりやすく説明する。
- 文章を読みやすくするため, 句読点 (,) および終止点 (.) を適当につける。
- 章, 節, 項, 小見出の記号は原則として下記の要領にしたがつて表記する。

章	1	2	3
節	1.1	1.2	1.3
項	1.1.1	1.1.2	1.1.3
小見出	(1)	(2)	(3)
- 単位は原則として CGS 単位系を用いるが, 電磁気量の場合には, MKS 単位系を用いてよい。  
単位の略記号は第 1 表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いない。
- 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが, 周知のものはカタカナ書とする。  
なお必要な場合は原語を書き添える。  
元素名, 合金名, 化合物名はできるだけ化学記号によつて示すが, 周知の合金名, 化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。(第 2 表参照)
- 英字, 数字, ギリシア文字, 上ツキおよび下ツキ添字はていねいに記し, 混同しやすい文字はとくに注意して書く。英文の大文字, 小文字, ギリシア文字で混同しやすい文字にはとくに赤字で  $\text{\textcircled{A}}$ ,  $\text{\textcircled{B}}$  などと傍記する。ゴシック, イタリックを指定するときには, その文字の下にそれぞれ  $\text{\textasciitilde}$ ,  $\text{\textasciitilde}$  を付ける。

- 9) 数式は印刷に便利のように注意し、 $b/a$ 、 $(a+b)/c$  のように不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わす。
- 10) 表は本文中に挿入すること。1つの表の大きさは、会誌1ページの面積を考慮し、横の刷り上り寸法 6・7cm または14cm、縦の刷り上り寸法 18cm 以内におさまるようにする。
- 11) 図・写真・表の説明は英文とし(技術資料、講義、講演、解説はこの限りでない)、日本語を解さない外国人にも図・写真・表の意味が理解できる程度に書く。  
写真にはかならず倍率を記入する。
- 12) 図および写真は、横の刷り上り寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上り寸法の 2~3 倍大とし、下記の縮尺記号を記入する。  
(イ) 横 6・7cm (縮尺A)                      (ロ) 横 14cm (縮尺B)  
縦の刷り上り寸法は 18cm 以内とする。  
図・写真の字数換算は刷り上り寸法縦 7cm の場合、縮尺Aは 500 字に相当し、縮尺Bは 1000 字に相当する。  
図は白紙、オイルペーパーまたは青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書く。
- 13) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入する。  
図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を記入する。
- 14) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号を上ツキ小数字<sup>1)</sup>で示す。  
参考文献は 著者名: 雑誌名, 巻数(発行年)号数, ページ数の順に記載する。  
(例) R. K. GLASS: Blast Furn. Steel Pl., 46 (1958) 2, p. 198~204 雑誌名は第3表の略記例に従う。  
単行書は 著者名: 書名, (発行年), ページ数, [出版社名] の順に記載する。
- 15) 掲載原稿については別刷 20 部を贈呈, 20 部を超え別刷を希望するときは超過分を所定の料金で作製する。